

はじめに

環境科学調査センターは、市民の健康、安全および快適な生活環境を守り、本市の良好な環境を確保するため、環境行政を科学的かつ技術的に支援する調査研究機関です。

昭和46年に衛生研究所内に公害研究所を新設、その後、公害だけでなく幅広い環境問題に対応するため平成4年に環境科学研究所への名称変更を経て、平成24年には公害総合監視センターの機能を編入して組織改編し、現在に至ります。最近、マイクロプラスチックによる海洋汚染が大きな注目を集めるなど環境問題は刻々と変化していきます。我々も常に新たな視点で調査研究を進めていきたいと考えています。

さて、時代は平成から令和へと移りましたが、令和元年の夏も全国的な連日の猛暑、超大型台風の襲来や豪雨被害が相次ぎました。最早、異常気象とは言えない当たり前の気候になったようです。地球温暖化防止をはじめとして環境を良好に保っていくためには、環境学習を普及することが重要になります。当センターでは、毎年夏休みに小学生を対象に、秋には高校生以上を対象に実験等を取入れた体験型の環境学習の講座を開催しています。環境マインドを持つ人材の育成も重要な仕事の一つと自覚し、これからも内容の充実に努めていきたいと思ひます。

本年は、当センターの研究員2名がそれぞれ携わった研究について、関係学会から環境保全などに寄与する優れた研究として評価されました。「地域ネットワークを活用した化学物質の網羅モニタリングと統合的評価・管理手法に関する調査研究」が「日本水環境学会技術奨励賞」を、「石英繊維ろ紙に捕集したPM2.5中の有機トレーサー成分におけるガス吸着の影響」が「大気環境学会論文賞」を受賞しました。

ここに、当センターにおける平成30年度の業務内容と調査研究の成果を年報として取りまとめました。ご高覧いただき、ご意見、ご指導いただければ幸いです。より良い環境を次世代の市民に引き継げるよう、職員一同研鑽に努めてまいりますので、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。

令和元年12月

名古屋市環境科学調査センター
所長 中 井 昇